

# 平成29年度 第1回若草南小学校自己評価書

平成29年8月31日(木)作成

学校長：市川 利仁

記述者氏名：教頭 加賀美 敏

## 学校教育目標

「学びを深め、心豊かなたくましい子ども」

### 〔具体目標〕

- (1) 自ら学び、深く考える子ども (知)
- (2) 豊かな心で、思いやりのある子ども (徳)
- (3) 体をきたえ、最後までやりぬく子ども (体)

〔目指す学校像〕 **学び合い 高め合い 信頼し合う 地域と共にある学校**

〔育てたい児童像〕 **ふるさとを愛する児童の育成 < 若南プライド >**

### 〔若南プライド〕

地域の歴史・伝統・文化に気づき、自ら学び、体験する中で 地域に誇りを持ち、自尊心を高める積極的な活動に取り組む精神を醸成する。

### 〔学校経営の重点〕

#### 1 「自ら学び 深く考える子ども」の育成を図る。

(教師集団による組織的・計画的な研究からの授業実践を展開する。)

- (1) 基礎的・基本的事項をしっかり教え、確実な定着を図る。(繰り返し学び、定着化を図る)
- (2) 学習スタンダードに基づいた授業を実践する。(若南スタンダード、やまなしスタンダードの定着化)
- (3) 体験的活動や地域教材・地域の人材活用など積極的に取り入れ授業の活性化に努める。  
(体験的活動、地域教材・人材の活用)
- (4) 学習規律の確立を図る。(学習用具の準備、ノートの取り方、授業終始時の挨拶)
- (5) 家庭との連携・協力を図り、確かな学力の定着化をめざす。(宿題・自主課題の定着化、習慣化)

#### 2 「豊かな心で 思いやりのある子ども」の育成を図る。

- (1) 共感的理解に努め、心が通い合う教育を推進する。
- (2) 自尊感情の育成を図る。(教育活動全体を通して、「自分を大切に思う心」の育成)
- (3) 学校教育全体を通して道徳教育をめざす。(考え議論する道徳 道徳教育の日常化)
- (4) より良い人間関係を築き、充実した学校生活を実現するための集団活動に取り組む。  
(児童会活動、たてわり班活動の積極的な取組 自治的活動の醸成)
- (5) 読書活動・音楽活動を通して、豊かな情操・感性の育成を図る。
- (6) 豊かな人間性を育むため、充実した体験的活動に取り組む。
- (7) 礼儀正しい、規律ある学校をつくる。
  - ・場に応じた言葉使いができる。(丁寧な言葉遣い)
  - ・基本的生活習慣の徹底を図る。(あいさつ・返事・靴そろえ・イス入れなど)
- (8) 美しい環境づくりに心がける。(無言清掃(黙働清掃))

(9) 人間尊重の精神，社会生活上のルールなどの倫理観，夢や生きがい感の醸成を図る。

(忠恕の心 キャリア教育の充実)

### **3 「体をきたえ 最後までやりぬく子ども」の育成を図る。**

(1) 教育活動全体を通して，安全・防災について実践的な指導を行い，日常の実践化を図る。

(2) 給食の時間を中心に食育の充実に努める。

(3) 粘り強く最後までやり抜く強い意志をもった心身共に健康な児童の育成を目指す。

(4) 体力向上に向けて，充実した体育の時間・遊びの時間の確保，スポーツの奨励など積極的に推進する。(運動の日常化)

### **4 特別支援教育(特別支援学級・通級指導教室)の充実に努める。**

(1) 交流学級・在籍学級の担任，保護者・関係諸機関との連携を図り，指導の充実に努める。

(2) 一人ひとりのニーズに対応した適切な指導・教育相談に努め，また，地域における児童の教育に関するセンター的な役割が果たせるように努める。(サポートルームわかくさ)

(3) 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成し，その活用を図る。

### **5 連携・協働し，支え合う教職員組織をつくる。**

(1) 全教職員の総力・創意を出し合い，連携・協働し，支え合う教職員組織をつくる。

(2) 教育公務員としての自覚を持ち，厳正な服務規律の確保に努める。

(3) 保護者や地域との連携・協力を大切にした教育活動を進める。(説明責任を意識した教育活動)

### **6 家庭や地域との連携の中で開かれた学校づくりを推進する。**

(1) 保護者や地域住民と連携・協力した教育活動を展開する。(連携・協力体制の確立)

(2) 地域の一員としての自覚や地域を大切に思い，地域が誇れる心を醸成するための手立てとして地域の教材化と地域人材の活用，地域活動への積極的な参加を推進する。

(地域・地域人材の活用と地域行事への参加・地域貢献)

## I 第1回児童アンケートの考察

### 1 全体的な傾向

全20の質問項目中、肯定的評価が90%以上のものが15項目あり、残りの5項目も80%以上である。全体的に肯定的評価が多い。

ただし、「学校が楽しくない」、「授業がわからない」などと回答した児童が全校で4名ほどいる。こういった児童には個別の声掛けをして、教職員全体で指導をしていく。

### 2 昨年度と比較して良くなっている項目 ※ ( ) 内は肯定的評価の比較

[項目10]「わたしは、自分で考えたことを、進んで発表しています。」(74→80) +6ポイント

[項目15]「わたしは、本をよく読みます。」(76→85) +9ポイント

以前からの課題であった上記2項目が改善されつつある。これは、校内研究の推進に伴う、アクティブ・ラーニングや若南スタンダードへの取組の成果だと思われる。教職員に取組内容や改善策を聞いたので下記に記述する。

[項目10] について

- ・人の話を聞かせた。
- ・語彙を増やした。
- ・自分の考えを文章化させた。
- ・発言できた児童をみんなの前で褒めた。間違えても発言することが授業のためにとってよいと称賛し、意欲付けや自信につなげた。
- ・発言回数を可視化し、全員発表を目標にした。発言できるように友達同士で励まし合う姿が見られ、良く発言するようになった。
- ・班ごとにポイント制で1週間チャレンジをしてシールを渡している。必ず間違えても良いことを伝えながら、まずは進んで発表する場をつくっている。
- ・一人一発言をすることを全体に確認して発言する機会を多く設けるようにした。
- ・グループ学習での発表を意識させた。個人差はあるが、小グループから発表の練習をすることが大切。
- ・「まずは自分の考えを持つ」という合言葉で授業のみならず友達のことなどみんなで話し合う場面でも大切にしている。各々の思いを大切にしようとする基盤が教室にあることが大きいと思う。そして何を聞いているのか、何について考えているのか、見通しの持てる指示やヒント、説明をしている。
- ・学校全体の課題の共有が年度初めに確認でき、それに基づいて意識して取り組んだからではないか。(重点課題の意識化)
- ・協働学習の場を意識的に1日1回は取り入れると更にアクティブな姿が見られると思う。
- ・学習形態を教科や内容によって変えていくことで発言しやすい場づくりをするとよい。
- ・課題に対して自分の考えを持つ、ペアやグループで発表しあう。全員の前で発表し、全体で確認するという取組を多く取り入れてきた。

[項目15] について

- ・「図書室で本を借りておいで」と声掛けをすることがまず大切。
- ・規準を設けて取り組んだらどうか。

- ・読書の時間だけではなく、低学年は読み聞かせを多く取り入れることによって本への関心が強くなっている。
- ・隙間の時間を見つけて本の読み聞かせを行った。
- ・目の前にいる子どもたちに伝えたいこと、考えてもらいたいことを新聞や本を通して紹介している。生き方、社会を良くする上で学んでほしいと伝えている。
- ・学習内容と関連する本や資料を教室に用意するようにし、本に親しむようにした。

### 3 課題として考えられる項目

〔項目 3〕「わたしは、最近友達にいやがることを言ったり、いやがることをしたりしたことがあります。」(6→9) +3

〔項目 4〕「わたしは、最近友達からいやがることを言われたり、いやがることをされたりしたことがあります。」(7→20) +13

〔項目 8〕「わたしには、困った時に、相談にのってくれる友達があります。」(96→88) -7

アンケートからは友達関係が昨年度よりも悪くなっている。学年によって差があるが、高学年より低学年の方が友達関係には課題を持つ子が多い。授業（アクティブ・ラーニング）を支える学級づくりには友達関係はとても重要なので、課題への考察と改善方法について下記に記す。

- ・1年生はアンケートの意味が分からずに否定的な回答をしてしまうものもあった。質問内容を具体的に説明したり、否定的な回答をした子には個人的に呼んで再度アンケートをしたりする必要があると思った。
- ・低学年は、考えがまだ自分中心のことが多いので、アンケート結果を見て、実際の話をよく聞いた方がよい。
- ・学校生活に慣れてきたことにより友達に嫌なことを言ったり、言われたりしまったりすると考える子が増えていると思う。
- ・やっていいこと悪いことの判断ができるようになってきた。悪いことをしたときに反省できるようになってきているので、行動に起こしてしまう前にどうするのかや相手の気持ちを考えることができるようにしたい。
- ・エンカウンターや道徳、学活での継続的な働きかけを意識する。
- ・道徳、学活、帰りの会等でエンカウンターを取り入れたり、「いいところ見つけ」をしたりして互いに認めあえる学級づくりをしていく。
- ・トラブルになった時は時間をかけてじっくり話し合いの場をつくり、納得がいくまで指導している。また、クラス全体の事として全体指導も一緒に行う。
- ・ルールの徹底が、されていない学年があるように思う。日頃の学級指導、ソーシャルスキルトレーニングがとても大事である。
- ・学級力アンケートを生かしたクラスでの取組（スマイルアクション）など子どもたちで友達との関わりの面で改善したい点を出し、実行することが大切。出来たことを褒め合う（ほめほめタイム）等の設定も良いと思う。
- ・クラスでレクを実施し、みんなで認め合う場、楽しむ場、交流する場を取り入れることもよい。
- ・帰りの会で友達の良かった行動・行為を発表し、全体で共有する機会を取っている。

- ・児童会が取り組んでいる「いいこと集め」を学級で取り組んでいる。
- ・小さいころから相手の立場や気持ちを考える経験をすることが少なくなっている。遊びの中で学ぶことがたくさんあることを周りの大人も理解し、何かある時には、話を聞いたり、思いを受け入れたりするようにして安心して前進していける素地をつくっていきたい。学校でも意図的に仕組むことも時には必要だと思う。子どもと大人の横のつながりも求められていると感じる。
- ・トラブルが起こったらすぐに事実確認を行い、適切な指導を行っていく。友達関係やいじめに関わる内容の道徳授業も行い、児童の道徳心を育てることを意識して取り組む。
- ・学校全体での未然防止としてのきめ細かな対応が一層充実したものになるようにすることが重要。何かあったら即対応。必要に応じて課題共有。全校一丸での対応。
- ・各担任の早急な対応で自分の行動が友達にとって嫌なことだったと自覚できたのだと思う。
- ・表面化してきた問題に対して一つ一つ大切に向き合い子どもたちとどうしたらよいか話し合うことが必要だと思う。
- ・まずは教師が相談相手になって話を聞く。
- ・教師の積極的な声掛けも重要だと思う。

※注1 エンカウンター 本音を表現し合い、それを互いに認め合う体験のこと

※注2 構成的エンカウンター リーダーの指示した課題をグループで行い、その時の気持ちを率直に語り合うことを通して、エンカウンター体験を深めていくこと。

※注3 ソーシャルスキルトレーニング 「ソーシャルスキル」とは 対人関係や集団行動を上手に営んでいくための技能（スキル）のこと。言い換えれば、対人場面において、相手に適切に反応するために用いられる言語的・非言語的な対人行動のことで、その対人行動を習得する練習のことを「ソーシャルスキルトレーニング」という。

※注4 学級力アンケート・スマイルアクション 子どもたちが学級の分析・改善に自律的に取り組むためのアンケート。このアンケートをもとにスマイルアクションという改善策に取り組む。早稲田大学教授・田中博之先生が提唱している。

## 〔まとめ〕

どの学年からも意見が出ているが、一人ひとりの児童を大切に学級・学年づくりを進めていくことが大切である。個も大切にしながら、集団としてのルールも大切にすることが重要である。

具体的には、Q-Uや学級力アンケートなどの調査の結果をしっかりと分析・考察する。そして、その結果からその学級にあった取組（エンカウンターやスマイルプランなど）を行い、児童が主体的に関わるようにさせる。また、担任だけが児童理解や生活指導をするのではなく、多くの教職員が関わって、より良い集団づくりを進めていくことがポイントになる。

児童会で行っている「いいことさがし」やたてわり活動も、友達同士の理解や異年齢集団の交流を深めるのに役立っているため、そういった活動は継続して取り組み、豊かな人間関係が築けるようにしたい。

## Ⅱ 第1回教職員自己評価の考察

### 1 全体的な傾向

教職員自己評価の結果は、すべての質問項目において肯定的回答が多数を占め、学校長の指導の下、学校教育目標達成のために全職員が協力して努力していることがわかる。

### 2 プラス評価が多かった項目（A評価が80%以上のもの※カッコ内は回答者数）

#### Ⅱ 学校経営・組織について

③教育公務員としての自覚を持ち、職務に従事している。92.5%（A25・B2）

#### Ⅲ 学習指導・児童指導について

①基礎基本の定着や意欲的に取り組むための授業づくりの工夫を行っている。

80.7%（A21・B5）

⑤問題行動（いじめ・不登校等）の早期発見に心がけ、早期対応を行っている。

80.7%（A21・B5）

#### Ⅳ 安全管理について

①校舎内外の安全点検を計画的に実施することにより、危険箇所・修理箇所の対応ができて  
いる。

82.1%（A23・B5）

#### Ⅴ 保護者・地域との連携

②学校・学年・学級だよりなどにより、適時必要な情報提供を行っている。

81.4%（A22・B5）

#### 〔課題・意見〕

◇気になる児童へのケース会議、SRの細やかな対応、保護者との関係作り等個に配慮した授業を行っていると感じる。

◇保護者との話し合いを持ち、不登校気味の子への対応を担当だけでなくたくさんの職員の協力のもとできている。

◇問題行動は未然防止が一番重要です。そのためには素早い情報共有が欠かせません。空振りでもいいですから何かあったらすぐに全員で情報共有する体制をお願いします。

◇若南スタイルが定着している。

◇学力差を感じていて、個に対してもっと配慮して対応しなければと感じている。SCの先生がいて大変助かります。算数などの授業で個別にみてあげたい児童が多い。やり方を工夫しているが、TTの先生を活用していきたい。

◇修理が必要な場所など連絡が入ったらすぐ対応してくれる。

◇18年目という事で傷んでいる所も多い。水回り、水漏れも気になる。安全点検をしっかり行い、チェックしていくことが大切。

◇学校と地域の方との結びつきがあり、保護者も学校に対して協力的な関係が築かれてきた様子が見える。

◇昨年度に比べて授業参観などでの保護者の私語が少なくなり、子どもの様子をよく見ていると感じた。

◇部会の参加する保護者の様子を見ても、日々の連絡帳の言葉を見ても協力的な方が多いと感じている。

〔考察〕

全体的傾向でも述べたが、全員が教育公務員という自覚を持ち職務に従事している。また、校内研究に意欲的に取り組み、子どもが主体的に学ぶ授業改善を行っているが、個別指導を必要とする児童もいる。きめ細かな指導を充実させるためにも、行政や地域の協力を得て、更なる加配の拡充や教育ボランティアの拡大を図っていきたい。

生徒指導もスクールカウンセラーの活用や早めのケース会議の開催など、きめ細やかにチームとして対応をしている。その結果、不適応を示す児童も確実に減ってきている。

学校・学年・学級ごとに工夫した便りを出して学校の様子を家庭に伝えている。また、学校だよりは地区回覧をして、広く学校のことを知ってもらうようにしている。

3 課題として考えられる項目（C評価があるもの、B評価が多いもの）

II 学校経営・組織について

②教職員間の相互理解が十分になされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。

④職員会議は能率的・建設的に行われている。

⑤学校行事は職員の共通理解の下に実施され、内容も適切である。

〔課題・意見〕

◆職員全員の共通理解を図るために終礼を2回持ったり、校内メールを活用するようにしてほしい。（急な変更連絡が全員にしっかりと伝わっていない）

◇職員会議はいつも能率的に行われていると思う。

◇職員会議は事前に資料配布されているため少しは時間短縮ができています。

◆「時を守り、場を淨め、礼を正す」の中の時を守ることが大切です。会議は定時で始めることが肝要です。常にPDCAを意識した取組をすることが大切です。

◆年度初めにはわからないこともあるので、月の職員会議で検討する時間が設けられたら良い。会議を定時に始められるように徹底を図りたい。

◆それぞれの行事の意義とか教育効果等は良くわかるが、それぞれの行事が重ならずに行われればより効果的で成果も出ると思う。（中休みがほとんどない週もあり、児童は大変だったと思う）

IV安全管理について

③個人情報保護・情報セキュリティの認識を常に持ち、適切な管理を行っている。

〔課題・意見〕

◆職員室の机の上にテストなどが置いてあることが多い、出入りの業者が自由に入れるので

◆何かあった時「魔が差した」とよく言います。「魔が差さない」ようにするために時間に余裕を持つ。シミュレーションを入念に行いリスクとなるところを未然に潰す。など心配り、心配りが重要だと思います。

◇個人情報の取り扱いは特に注意している。

V保護者・地域との連携

③保護者は、学校行事・学習指導や生活指導に協力的である

〔課題・意見〕

◇学校と地域の方との結びつきがあり、保護者も学校に対して協力的な関係が築かれてきた様子が見える。

- ◇昨年度に比べて授業参観などでの保護者の私語が少なくなり、子どもの様子をよく見ていると感じた。
- ◇部会の参加する保護者の様子を見ても、日々の連絡帳の言葉を見ても協力的な方が多いと感じている。
- ◇どんな活動・行事であっても「100%全員が良かった」という評価を得ることは非常に難しいものがあります。だからこそ PDCD を確実に回して次の取組に活かすことが重要です。

[課題への取組]

▲職員間の共通理解について

みんなが共通理解をし、指導のブレがないようにするためにもスタンダードやユニバーサルデザインを決めていくことは大切である。

職員会議資料も数日前に配付されるように改善されてきたが、提案も昨年度の資料のままではなく、反省を生かしたものに作る。(PDCA の確実な実施)

変更が一部の人だけしか伝わっていないと、聞いていない人は疎外感や不信感を持つ。パソコンのインフォメーション機能も活用したいが、パソコンを見られない人がいるので、急用は必ず職員室の入口に掲示する方法を徹底する。また、互いに声をかけあうようにする。

週末の打合せの時間の開始時刻を早めたり、予定の確認に時間をしっかり取ったりするようにする。

▲行事精選・時間厳守・多忙化について

来年度は学習指導要領の改定に伴い、道徳の教科化や外国語の時間の先行実施があるので、授業時数の確保はもちろんだが、目指す児童像の実現のために、各教科や行事を有機的に関連付けた教育課程を作っていく。多忙化が予想されるならば、思い切って行事の精選や行事の取組の改善、時間割の見直し等を図っていく。また、それを教育課程に反映させていく。

時間は工夫して生み出すしかないので、会議等は時間通りに始める。(全体主義ではなく定刻主義で行う)

▲危機管理について

- ①個人情報管理の徹底。職員室への業者・児童の立ち入り制限。机上の整理(学年の棚・ロッカーの利用)を行う。
- ②保護者への呼びかけ。子ども〔自分の子以外〕の写真勝手に SNS 等に流さない等の対策も必要かもしれない。個人情報取り扱いの項目を見直し保護者をお願いをしていく。

▲予算について

学年費(教材費と積立金)は、保護者からの集金している。教材費の内訳はワーク・テスト類、実験・工作材料がほとんどである。その他の用紙類などの消耗品は学校予算で購入している。子どもの教育のために必要なものは購入すべきであるが、限られた学校予算のものは大切に使うなければならないし、有効に使うなければならない。そのために必要なものはしっかりと予算要求をして、必要なものの充実と不必要なものの削減を図っていく。

◎今年度、本校は市の研究指定の2年目になる。11月に公開研究会を開催するが、児童の学びを『深い学び・対話的な学び・主体的な学び』にできるように努力していきたい。